

平成24年度

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻入学者選抜試験

【2年短縮型】

法律科目試験問題：刑事法（配点：100点）

注意事項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は、全部で2ページである。
解答用紙は、全部で8ページである。
問題冊子、解答用紙に脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の上部所定欄に、1ページには氏名、受験番号、試験の科目名を、2ページ以降は各ページに氏名を忘れずに記入すること。
- 4 解答は、第1問は1ページから、第2問は5ページから記入すること。
- 5 解答以外のことを書いたときは無効とすることがある。
- 6 机上に各自の「受験票」と「法科大学院全国統一適性試験受験票」を出しておくこと。
- 7 解答用紙は、8ページを超えて使用することはできない。

第1問 (刑法)

Xは、金品を窃取する目的で、2階の鍵のかかっていない窓からA宅に侵入し、タンスの引出し等を探したが、現金を見つけることはできなかった。そこで、Aが就寝中の寝室に移動し、枕元の有名ブランドのハンドバッグを見つけ、その中の、同じブランドの財布をあらためたが、財布の中にはほとんど現金がなく、キャッシュカードが数枚入っているだけであった。Xは、ブランドもののバッグと財布だけでも質に入れば換金できるのではないかと思い、いったんバッグと財布を携えて、侵入した場所からA宅を出ようとしたが、このまま金目のものを何もとらずに帰るのは腹立たしいと思い、キャッシュカードの暗証番号をAから聞き出したうえで、キャッシュカードで現金を引き出そうと決意して、再度Aの寝室に引き返した。

Xは、Aを揺り起こし、キャッシュカードを示しながら、「現金が一番多く入っている口座のキャッシュカードはどれだ。暗証番号を教えろ。教えないと殺すぞ。暗証番号を教えて黙っていれば、乱暴はしない。」とすごんだ。Aは、熟睡中起こされ、頭が朦朧としていたことに加えて、突然見知らぬXに脅されて気が動転して、Xに言われるままに残高の一番多い口座のカードを指し示し、その暗証番号をメモしてXに渡した。Xが、そのメモを見ている間にAは隙を見て自宅を抜け出したが、慌てていたため玄関口で転倒し、全治2週間の傷害を負った。Xは、最寄りのATMで教えられた暗証番号を用いてキャッシュカードで現金を引き出そうとしたが、Aがその間に暗証番号を変更していたので、現金を引き出すことができず、また、Aの通報で駆けつけた警察官に取り押さえられた。

Xの罪責を論じなさい。

(配点：60点)

(刑事法)

第2問 (刑事訴訟法)

「X〔被告人〕がV〔被害者〕を刺殺した」という甲〔目撃者〕のはなしを聞いた乙〔甲の友人〕の供述を、警察官が録取した書面がある。この書面をXの殺人被告事件において、証拠として使用することができるか、論じなさい。

(配点：40点)